

エコアクション21  
環境経営レポート  
2025



令和6年4月～令和7年3月（第17号）

株式会社 近代プラント

発行日：令和7年 7月15日

# 目次

環境経営方針.....	1
1.事業の概要.....	2
(1) 事業所名及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 資本金	
(4) 環境管理責任者氏名及び担当者の連絡先	
(5) 事業内容(認証・登録の範囲)	
(6) 会社沿革	
(7) 事業の規模	
(8) 許可の内容	
(9) 受託した産業廃棄物の処理量	
(10) 保有台数	
(11) 事業年度	
(12) エコアクション 21 実施体制	
2. 環境経営目標.....	6
3. 環境経営計画の内容.....	7
4. 環境経営目標の実績.....	8
5. 環境経営の取り組み内容とその結果の評価.....	9
6. 次年度への取り組み内容.....	18
7. 環境関連法規制等の遵守状況.....	18
8. その他.....	20
9. 代表者による全体評価と見直しの結果.....	22
10. 次年度 環境経営目標及び環境経営計画.....	23

# 環境経営方針

## 基本方針

株式会社 近代プラントは、水や空気を清浄に循環させることを使命とし、高い技術知識を以って受託施設を適正に管理する企業です。

私たちは地球環境及び生態系の保全を人類共通の最重要課題と認識し、水処理施設を中心とした機械設備において、絶えず変化する環境に合わせた処理技術の確立による信頼を獲得すること、更にそこから維持管理に関する包括的な業務という事業機会を拡大することで、「地域に根差した環境づくり」を進めて参ります。

## 行動指針

1. 事業活動に関する環境への負荷を削減するために、以下の項目における使用量の把握、削減に向けた取り組みを行います。

電力量、化石燃料、上水、一般廃棄物、生物に有害な化学物質

2. 業務に関する物品の調達において、コストと環境負荷を把握して両立を目指します。

3. 環境関連の法規制及び当社が合意した取り決めに遵守します。

4. 啓発活動への参画による環境コミュニケーションの推進

(1) 環境活動レポートの公表

(2) 地域の環境保全活動に貢献

5. 全従業員にこの環境経営方針を含む環境教育を行い、環境への意識と意欲の向上に努めると共に、全員参加で環境改善活動を行います。

6. 上記 5 つの環境経営活動について、毎年の振り返りを行い、改善を図ります。

以上

制定日：平成 20 年 9 月 1 日

改定日：令和 2 年 4 月 1 日

株式会社 近代プラント

代表取締役 石田 保憲



(7) 事業の規模

活動規模	単位	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
<b>処理量</b>					
流入水量(東部水処理センター)	m <sup>3</sup>	38,227,014	36,925,630	39,733,900	39,089,330
汚泥供給量(東部水処理センター)	m <sup>3</sup>	200,683	191,754	193,616	183,203
MAP 発生量(東部水処理センター)	t	20	24	36	45
脱水ケーキ焼却量	t	26,772	28,955	31,417	30,112
脱水ケーキ運搬量(車輛班)	t	6,527	5,573	5,147	5,218
焼却灰運搬量(車輛班)	t	1,406	1,987	2,579	2,383
従業員(全社)	人	86	85	88	90
本社(敷地面積)	m <sup>2</sup>	962	962	962	962
売上高区分	区分	B	B	B	B

※売上高区分の定義 A:5 億円未満 B:5 億円以上 10 億円未満 C:10 億円以上

(8) 許可の内容

業の種類	発行機関	許可年月日	事業範囲	許可した廃棄物の種類	有効期限	許可番号
産業廃棄物収集 運搬業	福岡県	R4年12月18日	収集・運搬	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等  (以上3品目については、自動車破砕物を除く)、燃え殻、汚泥、廃油、ばいじん(燃え殻、汚泥、ばいじんについては水銀含有ばいじん等を含む)	R9年12月17日	4000001300

(9) 受託した産業廃棄物の処理量

活動規模		単位	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
収集運搬	焼却灰(リサイクル処理)	t	156.10	155.78	1,316.41	1,371.15
収集運搬	焼却灰(加湿埋立処分)	t	0	0	0	0
収集運搬	脱水汚泥(リサイクル処理)	t	16.43	8.43	1,154.56	0
収集運搬	合計	t	172.53	164.21	2,470.97	1,371.15

※有価物としての輸送などもある為、(7)の値と異なる。

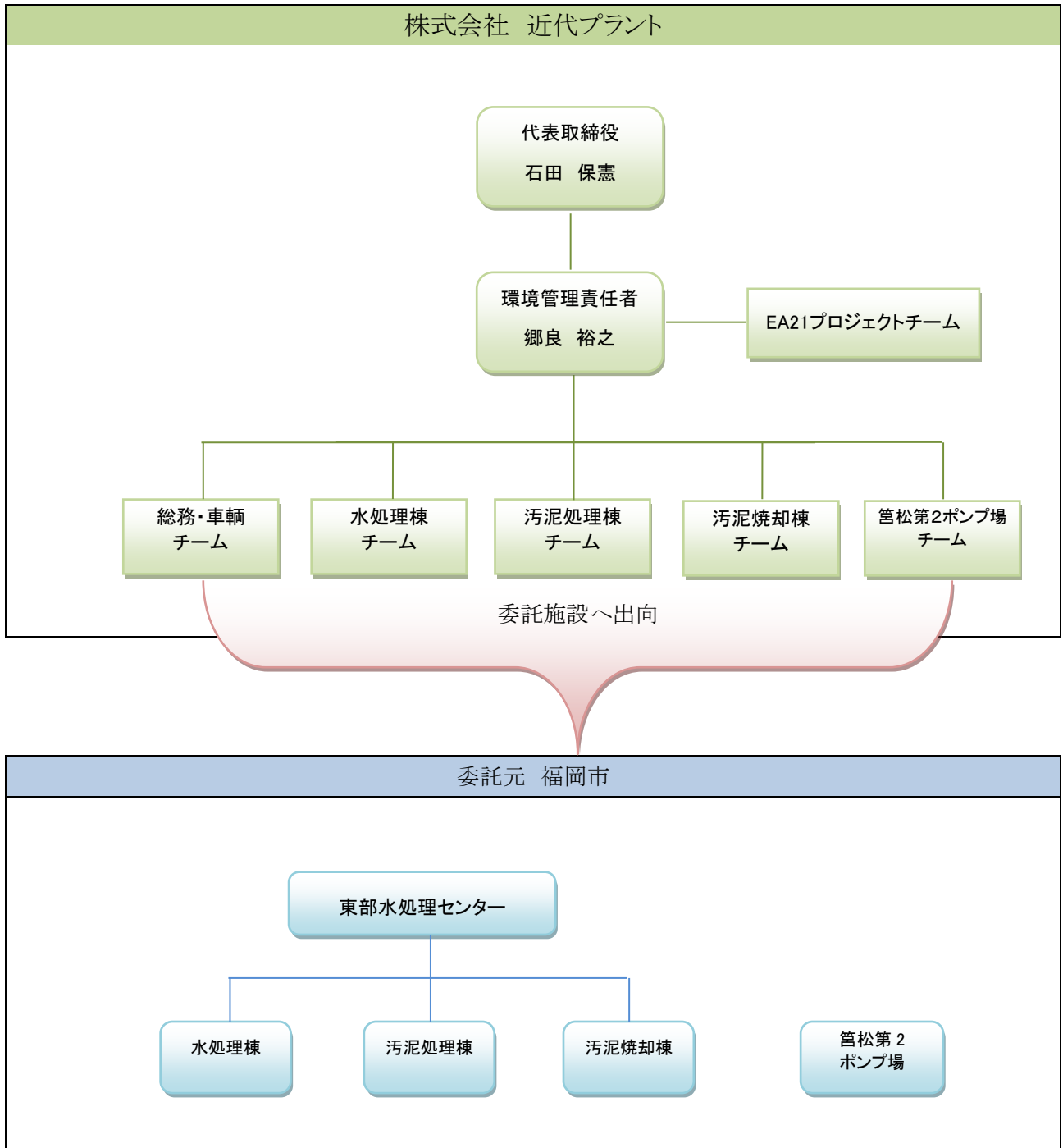
#### (10) 保有台数

- ◆10t ジェットパック車 (3台)
- ◆10t ダンプ (4台)
- ◆4t ダンプ (3台)
- ◆4t ダンパー (1台)
- ◆2t ユニック (1台)
- ◆フォークリフト (1台)
- ◆乗用車 (5台)
- ◆軽自動車 (10台)
- ◆電気自動車 (3台)
- ◆7tダンパー (1台)
- ◆10tダンパー (3台)
- ◆3tパワーゲート (1台)
- ◆高圧洗浄車 (1台)

(11) 事業年度 (3月から翌年2月迄)

エコアクション21の取り組み期間は平成24年度より4月から3月迄に変更

(12) エコアクション21 実施体制



## 2. 環境経営目標

- ・ 環境経営目標は自社の事業活動を踏まえて、次の5項目について(令和6年度)の目標を設定した。
- ・ 二酸化炭素排出量の目標は電力量と化石燃料に分けて、基準値を令和2年度～令和4年度の実績値の平均値とし、基準値を基に各部署の業務量、稼働実績を勘案し個別に目標値を設定した。
- ・ なお、「化石燃料」については総量ではなく自社で削減努力できる項目(例えば、車両の化石燃料)を集計して目標値としている。(本社・車両 水処理施設 焼却施設 目標値個別設定)
- ・ 次に水使用量と廃棄物排出量は基準値を令和2年度～令和4年度の実績値の平均値とし、その数値を今後維持する目標とした。(宮松第2 焼却施設 目標値個別設定)
- ・ 化学物質については適正使用、適正管理を目標として使用量の把握に努めることとした。
- ・ 本業に関する目標については、薬品漏洩事故ゼロの達成に努める事にした。

環境経営目標		基準値 (令和2年度～令和4年度実績平均値)	令和6年度
(1)二酸化炭素 排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /年]	電力量	7,484,312.1	10,137,242.3
	化石燃料	658,097.8	393,611.8
	合計		10,530,854.1
(2)廃棄物排出量 の削減 [kg/年]	一般廃棄物 (可燃ごみ)	1,274.1	1,218.9
(3)水使用量の削減 [m <sup>3</sup> /年]		9,816.4	9,838.5
(4)化学物質の適正使用、適正管理		—	化学物質の適正使用、 適正管理に努める (使用量の把握)
(5) 本業に関する目標		—	薬品漏洩事故ゼロの達成

(備考)

- ※1 二酸化炭素排出量計算に用いた購入電力排出係数は 0.475kg-CO<sub>2</sub>/kWh(九州電力(株)令和4年度の調整後排出係数)を用いた。
- ※2 福岡市東区の人口は増加しており、また近年の異常気象から東部水処理センターへの流入量増加による処理負荷は年々増加している。このような状況における環境経営目標(維持目標)は実質的に削減目標と考えている。

### 3. 環境経営計画の内容

環境経営目標を達成するために、目標項目毎に以下の取組を定めて全会社で取り組んだ。

#### (1) 二酸化炭素排出量の削減

区分	取組内容	本社・車両	水処理棟	汚泥処理棟	汚泥焼却棟	管松第2P 場
電 力 量 関 係	設備の効率的運転	—	○	○	○	○
	エアコン温度の適正化	○	○	○	○	○
	不要照明の消灯	○	○	○	○	○
化石燃料 関 係	エコドライブ運転の実施	○	○	○	○	○
	アイドリングストップの徹底	○	○	○	○	○
	給湯温度を低めに設定する	○	○	○	○	○

#### (2) 廃棄物排出量(可燃ごみ)の削減

区分	取組内容	本社・車両	水処理棟	汚泥処理棟	汚泥焼却棟	管松第2P 場
一般廃棄物(可燃ごみ)関係	可燃ごみ削減の呼びかけ	○	○	○	○	○
	リサイクル品を分別する	○	○	○	○	○
	家庭資源のリサイクル	○	○	○	○	○
	両面印刷・裏紙の使用	○	○	○	○	○

#### (3) 水使用量の削減

取組内容	本社・車両	水処理棟	汚泥処理棟	汚泥焼却棟	管松第2P 場
洗濯物のまとめ洗い	—	○	○	○	○
節水活動の推進	—	○	○	○	○
節水標語の貼り付け	○	○	○	○	○

#### (4) 化学物質の適正使用、適正管理

取組内容	本社・車両	水処理棟	汚泥処理棟	汚泥焼却棟	管松第2P 場
対象化学物質使用量の記録	○	○	○	○	○

#### (5) 本業に関する目標

取組内容	本社・車両	水処理棟	汚泥処理棟	汚泥焼却棟	管松第2P 場
薬品漏洩事故ゼロの達成	—	○	○	○	—

#### 4. 環境経営目標の実績

- ・ 令和6年度における環境経営目標の達成状況は以下のとおりである。
- ・ 二酸化炭素排出量の削減目標、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減目標は、達成となりましたが、化石燃料に関しては、目標比127.9%で未達成となった。

環境経営目標		令和6年度	令和6年度	目標比	目標達成判定
		目標値	実績値		
(1) 二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /年]	電力量	10,137,242.3	9,540,531.3	94.1%	○
	化石燃料	393,611.8	503,326.2	127.9%	×
	合計	10,530,854.1	10,043,857.5	95.4%	○
(2) 廃棄物排出量の削減 [kg/年]	一般廃棄物(可燃ごみ)	1,218.9	1,041.4	85.4%	◎
(3) 水使用量の削減 [m <sup>3</sup> /年]		9,838.5	7,467.2	75.9%	◎
(4) 化学物質の適正使用、適正管理		適正使用、適正管理に努める	適正使用、適正管理に努めた。	-	○
(5) 本業に関する目標		薬品漏洩事故ゼロの達成	薬品漏洩事故ゼロ	-	○

備考) 目標達成判定区分 ×: 目標比120%以上 △: 100~119% ○: 90~99% ◎: 90%未満

※環境実績の二酸化炭素排出量の計算に用いたCO<sub>2</sub>排出係数には以下の値を用いている

	単位	排出係数	単位発熱量	
購入電力	kWh	0.475 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)		
化石燃料	灯油	L	0.0187 (kg-C/MJ)	36.5 (MJ/L)
	A重油	L	0.0193 (kg-C/MJ)	38.9 (MJ/L)
	都市ガス	Nm <sup>3</sup>	0.0139 (kg-C/MJ)	45.0 (MJ/Nm <sup>3</sup> )
	液化天然ガス(LNG)	kg	0.0139 (kg-C/MJ)	54.7 (MJ/kg)
	液化石油ガス(LPG)	kg	0.0163 (kg-C/MJ)	50.1 (MJ/kg)
	ガソリン	L	0.0187 (kg-C/MJ)	33.4 (MJ/L)
	軽油	L	0.0188 (kg-C/MJ)	38.0 (MJ/L)

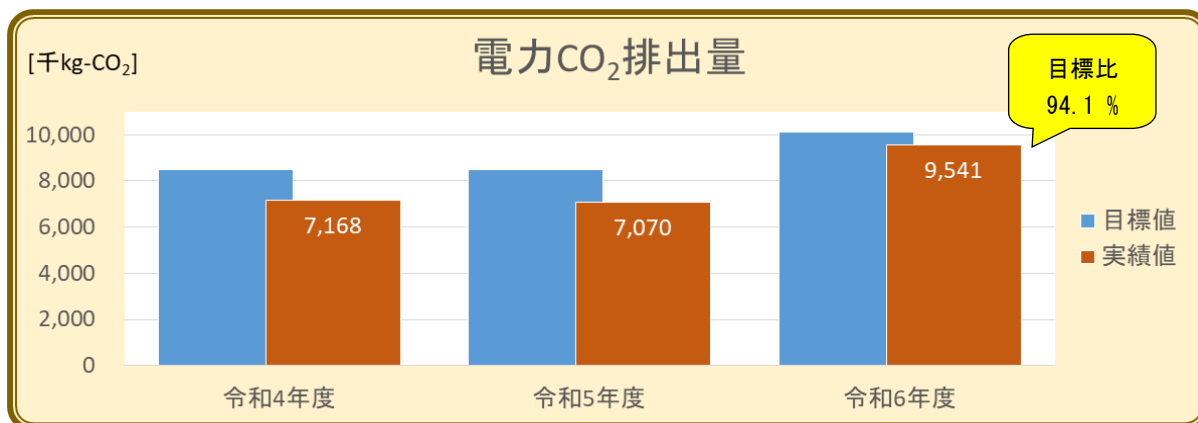
備考) 購入電力の排出係数は、九州電力(株)の令和4年度調整後排出係数0.475 kg-CO<sub>2</sub>/kWhを用いた。

## 5. 環境経営の取り組み内容とその結果の評価

- ・ 令和6年度における取組の評価を行った。
- ・ 主な環境活動についての評価は以下のとおりであり、取組は概ね良好であった。

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

#### ◆ 電力CO<sub>2</sub>排出量の削減 ◆

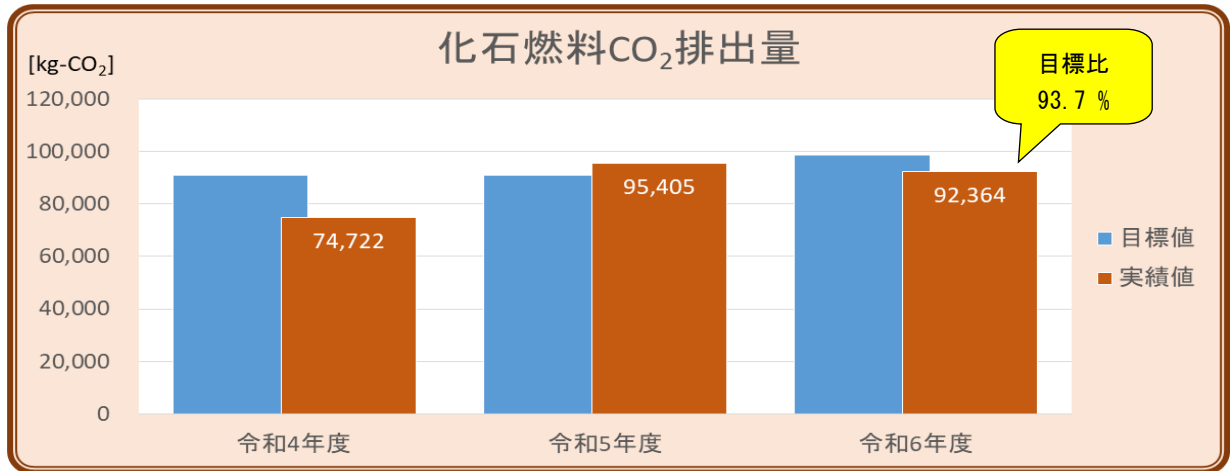


取組内容(令和6年度)	評価
設備の効率的運転	○ 設備の効率的運転に努めた結果、電力使用量は、昨年度より削減出来ている。尚、目標値変更の際に、排出係数も変更している。
エアコン温度の適正化	○ エアコン設定温度管理(冷房28度、暖房19度)、定期的なフィルター掃除が効果的であったといえる。
不要照明の消灯	○ 不要な照明の消灯や確実に点けたら消すが身に付いている。作業に影響が出る場所は安全を考慮し点灯や減灯するようにした。照明電力使用量を目標値以下に抑えられました。

※評価記入方法 ○…良好 △…概ね良好 ×…要検討

◆化石燃料CO<sub>2</sub>排出量の削減◆(主な取組)

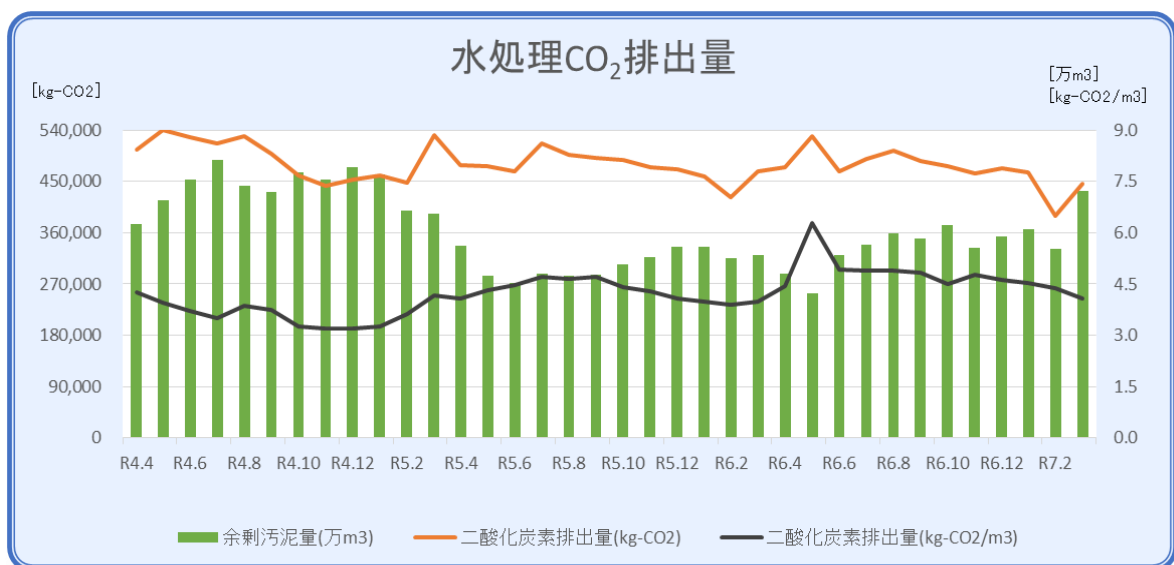
- ・主な取り組みとして軽油・ガソリン・LP ガス・灯油を対象とする。
- ・業務上、削減する事が困難な A 重油は、除く



取組内容(令和6年度)	評価
エコドライブ運転の実施	○ 車両におけるエコドライブの手順と法定速度の厳守や電気自動車の優先的使用を行った結果、使用量が減少し、目標を達成しました。
給湯温度を低めに設定する	○ 給湯温度を低めに設定し取組を行いました。 ○ ガスの使用量を把握した結果、前年よりは、1%の増加となりましたが、目標は、達成しました。
アイドリングストップの徹底	○ 車内にアイドリングストップシールを表示して取り組みを実施している。

※評価記入方法 ○…良好 △…概ね良好 ×…要検討

◆水処理の二酸化炭素排出量合計の月間推移◆

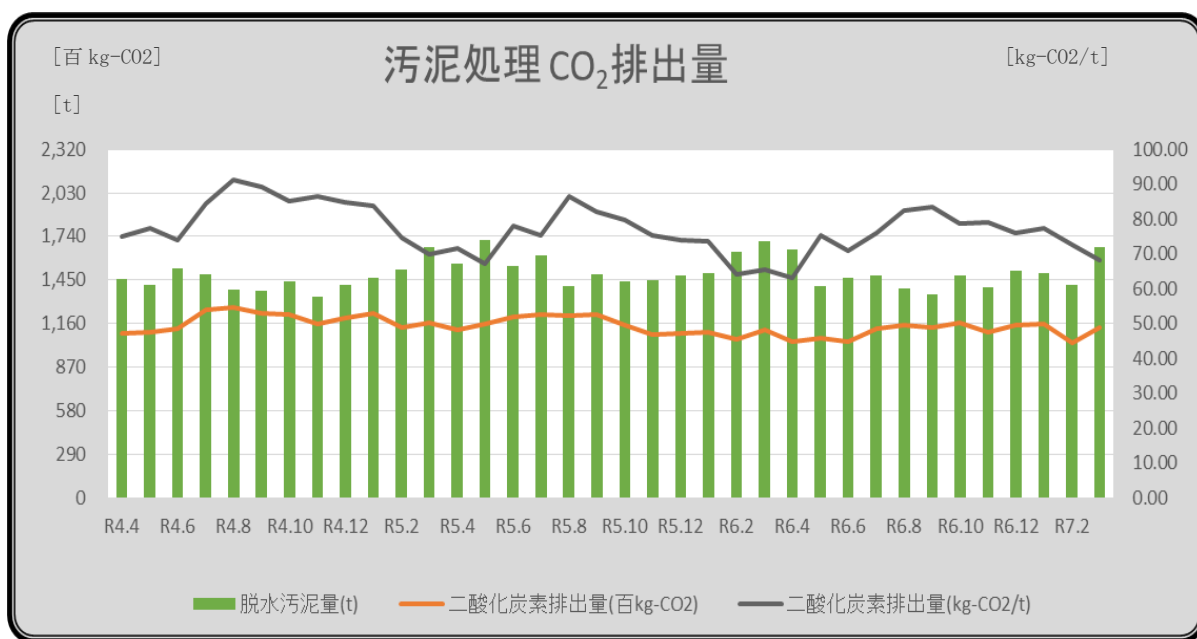


### 【評価】

水処理の二酸化炭素排出量全体では、年間目標値 6,127,666.2kg-CO<sub>2</sub>、年間実績値 5,684,217.5kg-CO<sub>2</sub>で目標を達成することができました。

R5.3 に汚水ポンプの更新工事が実施され、効率の良い運転操作を実施した結果、二酸化炭素排出量、工程負荷量を削減することができました。

### ◆汚泥処理の二酸化炭素排出量合計の月間推移◆



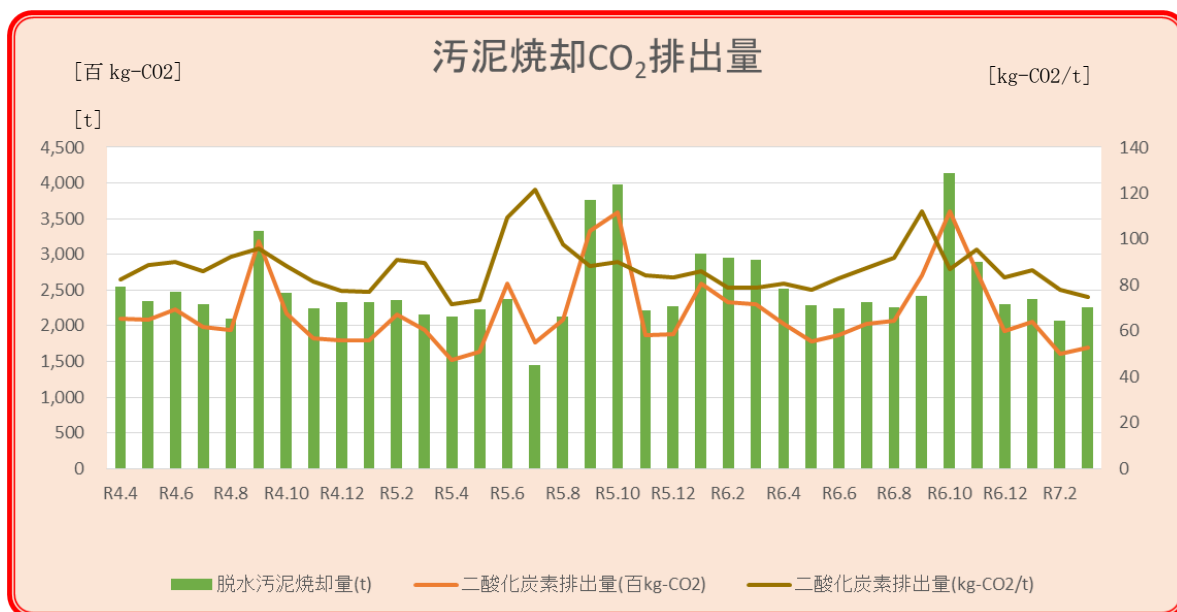
### 【評価】

汚泥処理の二酸化炭素排出量全体では、年間目標値 1,556,986.3kg-CO<sub>2</sub>、年間実績値 1,330,155.5kg-CO<sub>2</sub>で目標を達成できました。

改修工事をした消費電力の少ない脱水機の優先運転や、消化槽の加温をボイラーだけではなく洗煙排水の温水を用いることでより電力や二酸化炭素排出量の削減に努めています。

春(2～4月)の脱水汚泥を1トン作るのに排出する二酸化炭素が少なく済んでいる傾向が出ていますが、浚渫作業による脱水汚泥量の増加が影響していると思われます。ここ数年冬場に蒲田処理場の処理水や2系消化槽の浚渫作業があり、その時期から春先まで脱水汚泥の発生量が増加しています。消費電力はほとんど変わらないですが、発生する脱水汚泥の量が増加しているので数値上では効率良く処理がされているように見えますと考えられます。

◆汚泥焼却の二酸化炭素排出量合計の月間推移◆



**【評価】**

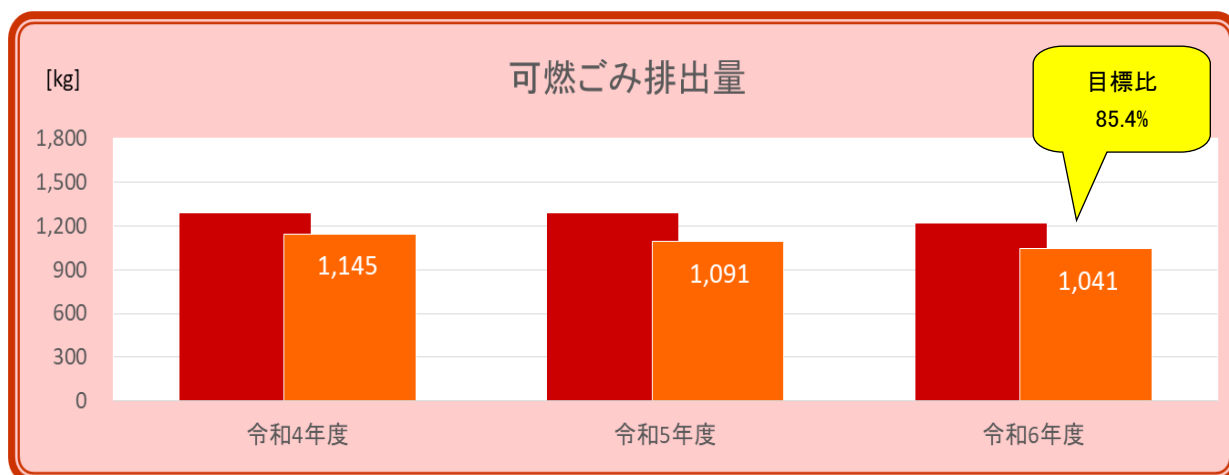
汚泥焼却の二酸化炭素排出量全体では、年間目標値 2,712,965.5kg-CO<sub>2</sub>、年間実績値 2,902,993.0kg-CO<sub>2</sub>で目標を達成出来ませんでした。要因として9,10,11月に2炉運転を行い、前年度より2炉運転の期間が長かった為と思われます。

汚泥焼却炉の燃料としてカーボンニュートラルの概念を持つ消化ガスを優先して使用する運転操作を行うなど効率的な運転を行い、二酸化炭素排出量の削減に努めます。

6～8月頃は1トン焼却するために排出する二酸化炭素量が増える傾向にあります。この要因として脱水汚泥量減少があり、汚泥投入を停止して保温運転（焼却量が0の期間が生じるが電力使用量はあまり下がらない）を行ったり2炉運転のために立ち上げのため昇温時に燃料を使用したりすることで、重油使用量が増加します。

## (2) 廃棄物排出量の削減

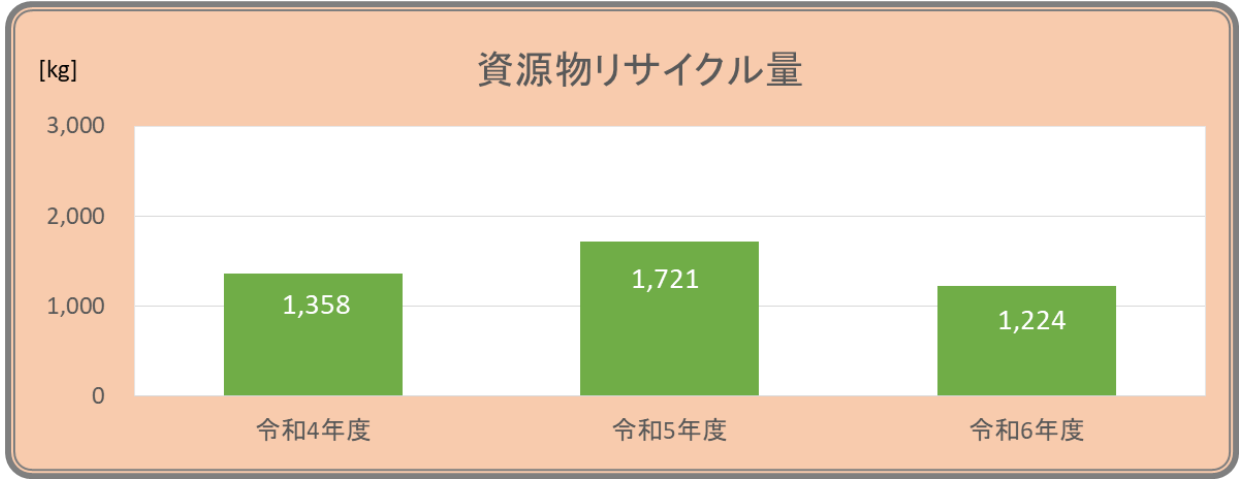
### ◆ 可燃ごみ排出量の削減 ◆



取組内容(令和6年度)	評価
リサイクル品を分別	○ エコの推進により各社員の意識が高まり、分別、リサイクルの徹底でゴミの減量化につながった。
可燃ごみ削減の呼びかけ	○ 家庭からの弁当の持参で弁当殻の廃棄の抑制及びオイル交換・グリス補充の周期見直しにより、拭き上げで発生するウエス等の廃棄を抑制する事により減少した。

※評価記入方法 ○…良好 △…概ね良好 ×…要検討

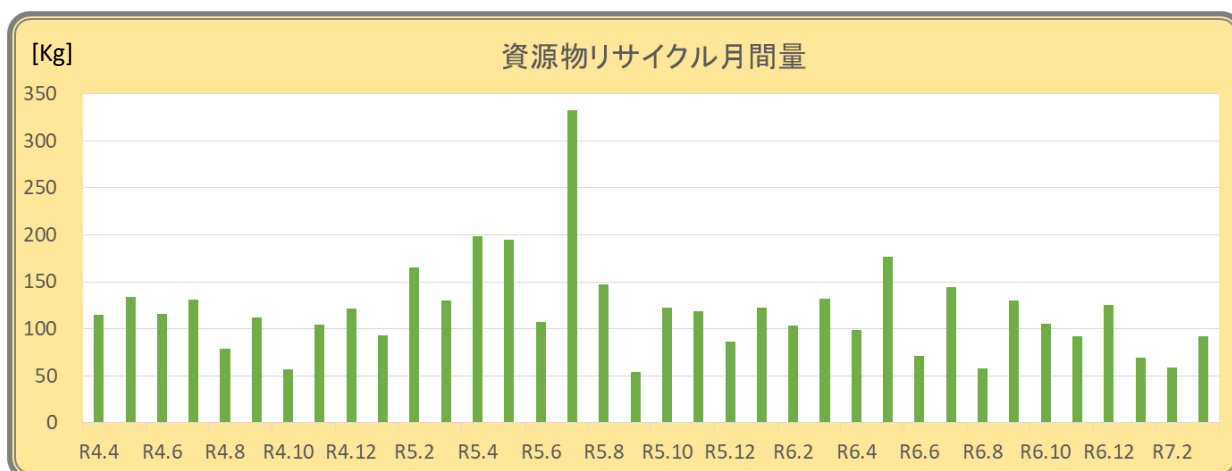
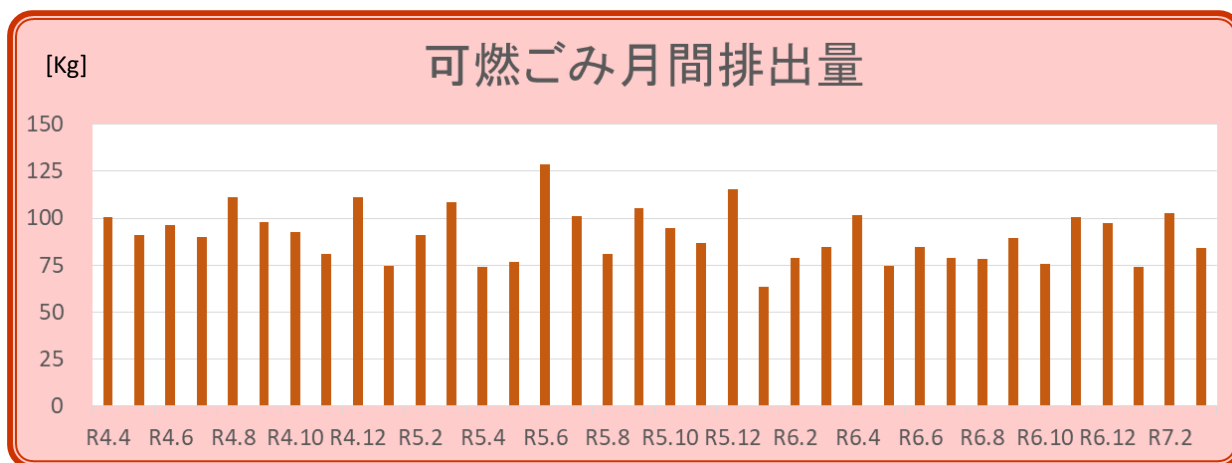
◆資源物のリサイクル◆



取組内容(令和6年度)	評価
家庭資源のリサイクル	○ 家庭で発生する資源の持ち寄りを呼びかけることで、リサイクルに協力されている事は評価できる。
両面印刷裏紙使用	○ 分別BOX 設置後は、各自の認識、把握ができ区分や裏紙使用が徹底されている。

※評価記入方法 ○…良好 △…概ね良好 ×…要検討

◆廃棄物排出量の月間推移◆



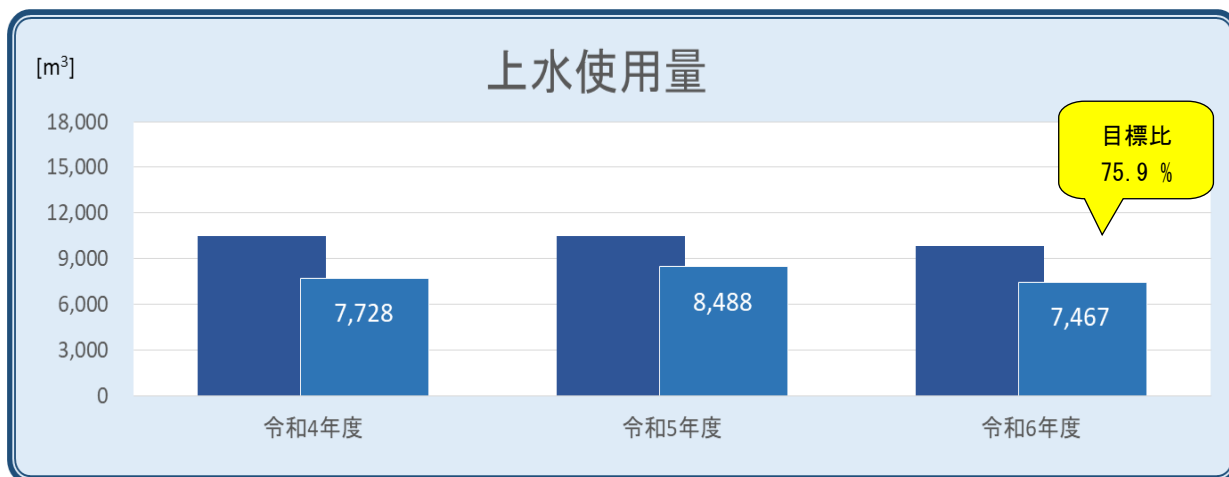
【評価】

可燃ごみの年間排出量は、年間目標値 1,218.9kg、年間実績値 1,041.4kg で目標達成しました。可燃ごみの廃棄量は、前年度より、7%の削減となっており、取り組みの成果が出ていると思われる。ただし今後も、作業時に生じるウエスや新聞紙等は発生し続ける為、ごみの分別の徹底や、使用済みウエスを捨てずに油污れに使用するなど取り組みを継続的に推進して行く。また資源物の適正管理活動も継続して行く。

※R5年7月の資源物リサイクル量の増加は、水処理施設で、書類関係を整理した事による。

### (3)水使用量の削減

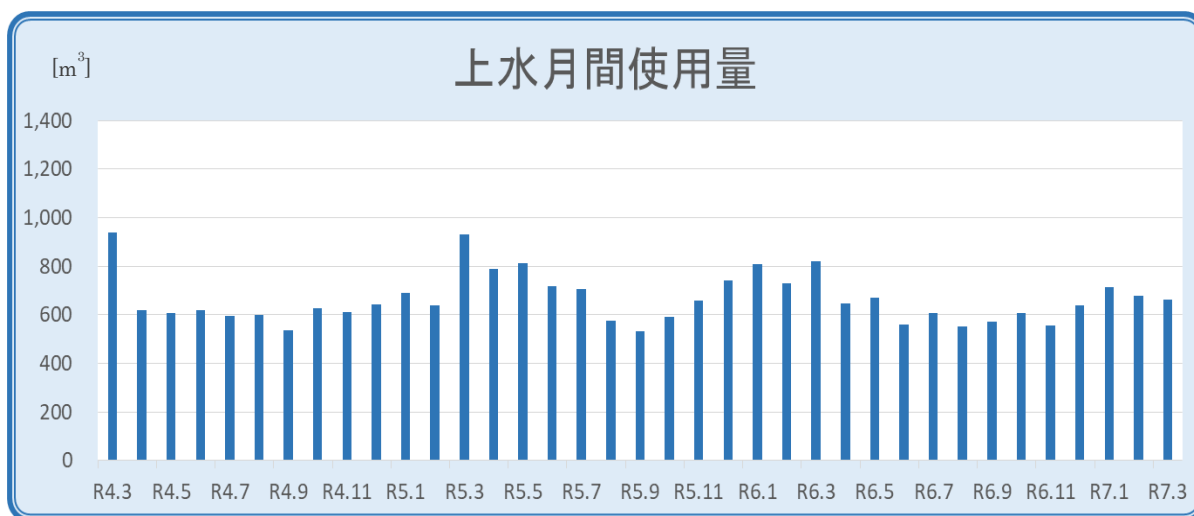
#### ◆上水使用量の削減◆



取組内容(令和6年度)	評価
洗濯物のまとめ洗い	○ 洗濯物をまとめて洗うことにより、洗濯回数を減らし上水の削減に結びついている。
風呂の湯の適正管理	○ 風呂を利用する際に、貯める湯量を適正な量にすることにより、無駄な上水の利用をなくしている。
節水標語の貼り付け	○ 節水標語が目につくように貼り付け、従業員の節水への意識が高まっているので、今後も継続していきたい。
漏水の早期発見	○ 点検時水漏れがないか確認を行う。

※評価記入方法 ○…良好 △…概ね良好 ×…要検討

◆水使用量の月間推移◆



【評価】

水の年間使用量は、年間目標値 9,838.5m<sup>3</sup>、実績値 7,467.2m<sup>3</sup>で目標達成できました。  
 前年度の使用量より 12%の削減となっており、社員協力のもと節水の取り組みが来ている。  
 汚れ物のウエス、作業着、軍手などは、たまってから洗濯するように心掛けてもらい、漏水の点検や水の出っぱなしをこまめにチェックする等、来年度も継続して、取り組む。

(4)化学物質の適正使用、適正管理

取組内容(令和6年度)	評価
化学物質使用量の把握	○ 化学物質使用量は、月1回在庫量を計測し、使用量、廃棄量を把握している。

※評価記入方法 ○…良好 △…概ね良好 ×…要検討

(5)本業に関する目標

取組内容(令和6年度)	評価
薬品漏洩事故ゼロの達成	○ 環境目標に対して全社員が意識を持って業務を行った結果、薬品漏洩事故は発生しませんでした。

※評価記入方法 ○…良好 △…概ね良好 ×…要検討

## 6. 次年度への取り組み内容

- ① 各部署、空調機の適正温度使用と管理、設備機器の効率運転に努める。
- ② 廃棄物削減、プリンター再生インク・充電式電池の不具合がないか次年度も引き続き管理していく。
- ③ 受注案件の増減に伴い環境目標値が現状の活動と乖離する場合は基準値の見直しを行う。
- ④ 地域貢献活動として弊社社員で本社、東部水処理センター、各ポンプ場周辺の清掃活動を実施している。次年度も引き続き清掃活動を行なっていく。
- ⑤ 次年度より資源物回収方法に変更が有れば、それに対応する。
- ⑥ 今年度より新たな活動として実施した福岡市の環境関連情報の紹介について、次年度も継続して実施することにしたので、紹介内容を検討する。
- ⑦ 事業所で使用する上水の削減に取り組む。
- ⑧ ガソリン・軽油の使用は CO<sub>2</sub> 排出の大きな要因である為、各部署エコドライブを心掛け、効率的に使用する様に取り組む。

## 7. 環境関連法規制等の遵守状況

法規名	遵守事項	遵守状況
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物の適正処理	○
	産業廃棄物の適正処理	○
	収集運搬業の許可・帳簿の保存	○
	産業廃棄物管理票の管理義務	○
道路交通法	運行管理者の選任と届出	○
	道路運送車両の保安基準・整備	○
騒音規制法	特定施設の届け出	○
	騒音の規制に関する基準の適合	○
悪臭防止法	規制基準の遵守	○
	事故時の措置	○
フロン排出抑制法	機器の点検	○
	点検整備記録の保存	○
下水道法	放流水の水質検査	○
	発生汚泥等の適正処理	○
水質汚濁防止法	排水基準の遵守	○
	排水の測定	○

大 気 汚 染 防 止 法	ばい煙発生施設の発生施設届出、報告	○
	排出基準の適合	○
毒 劇 物 取 締 法	取扱いの適正・保管	○
	廃液の適正処理	○
消 防 法	危険物の貯蔵・取扱いの適正管理	○
	消防計画(消防訓練の実施)	○
振 動 規 制 法	特定施設の届け出	○
	振動の規制に関する基準の適合	○
P C B 適 正 処 理 法	PCB の適正な処理	○
ダイオキシン類対策特別 措 置 法	焼却炉の測定	○
	ばいじん等の適正処理	○
高 圧 ガ ス 保 安 法	適正な貯蔵・取扱い	○
P R T R 法	特定化学物質の排出量の把握	○
	特定化学物質の管理	○
家 電 リ サ イ ク ル 法	廃棄時、引取業者への適正な引き渡し	○
自 動 車 リ サ イ ク ル 法	使用済自動車の引き取り業者への適正な引き渡し	○

- ・ 環境関連法規制等の遵守の状況を評価した結果、環境法規制等に対する違反はなかった。
- ・ 過去3年間、関係当局よりの違反等の指摘はされていない。
- ・ 最新の法律の改正もインターネットを活用して確認を行っている。

## 8. その他

### ① 周辺清掃の紹介

- ・ 弊社では地域貢献活動として周辺清掃を行っている。
- ・ 令和6年度は4月、6月、10月、12月に東部水処理センターの周辺を清掃した。
- ・ 以下の写真は清掃中に撮影したものである。

清掃活動の写真



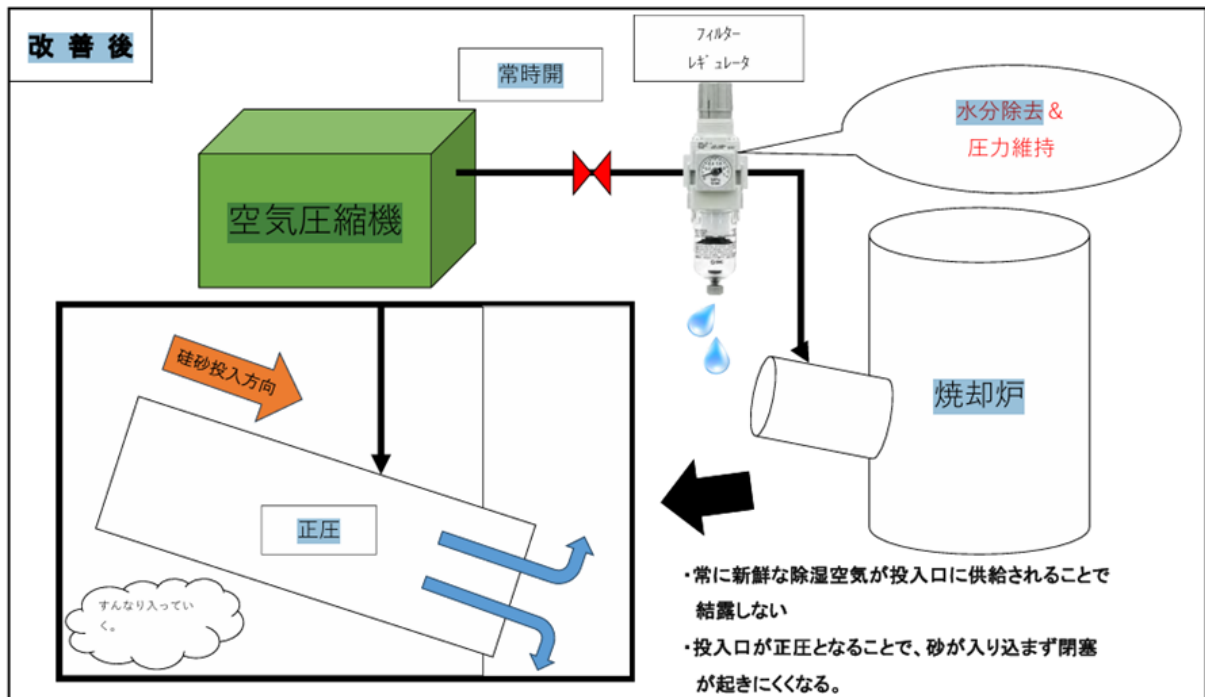
② 珪砂投入口パーリエアー用フィルターレギュレーター設置(改善)

焼却炉の珪砂投入口に、閉塞防止用のエアーパーリエ配管が設置されており、珪砂投入時のみ開にて、運用を行っていたが、珪砂投入口が、湿気を帯びて炉内の砂が堆積する事で閉塞し、珪砂が投入出来なくなってしまう為、珪砂投入口が完全閉塞せず維持する為には、6ヶ月に一度清掃を行う必要があった。

安全に詰まり清掃作業するには、炉内に直結した部分であるので、常温まで、冷却する必要があり、冷却から再度立上げまで1週間ほどかかる。

珪砂投入口のパーリエアーを常時開にして使用すると投入口の閉塞が防げるが、パーリエアーは、除湿空気が供給されておらず、常時開使用で、珪砂投入口に水分を投入する事になってしまう為、フィルターレギュレーターを設置した事で、除湿空気を連続的にパーリエ供給させる事が、可能となった。

経費の削減効果(6ヶ月毎、・珪砂投入口配管清掃時間 3 時間×3 名 ・焼却炉の冷却・昇温運転操作 24 時間×2 名 ・1 週間冷却運転で、概算 24500kw の消費電力の削減)が見込まれる。



### ③ 資源の収集

- ・ 弊社では EA21 の取り組み開始に伴い、各職場や社員の家庭で発生する資源を持ち寄り資源のリサイクルを行っており、令和 6 年度の結果は下表のとおりである。
- ・ 資源物を収集することで、各職場に対する呼掛けや、家庭で廃棄処分されている資源のリサイクルという形で効果が表れていると評価できる。

令和 6 年度の EA21 における資源の収集結果  
(令和 6 年 4 月 ~ 令和 7 年 3 月末)

		循環資源量 (kg)
資源物	白上質紙	189.9
	新聞紙	72.5
	段ボール	266.0
	その他の紙	431.1
	アルミ缶	36.7
	ビン	0.0
	スチール缶	88.6
	ペットボトル	134.8
	その他	3.9
	合計	1,223.5

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

場内設備の更新も要因ではあるが、過去三年間の CO2排出量の推移を見ると、汚泥の単位量に対して効率の高い運転ができており、各部署での高効率運転への努力とその結果が見受けられる。

現場での業務改善として、焼却炉での湿気に由来する砂の付着での閉塞防止を行った。炉を停止・起動する過程で電力と重油の使用量が増加するため、今回の業務改善は汚泥の燃焼効率を高めることが期待できる。各現場でこのような改善を試行錯誤する習慣が広がっており非常に喜ばしく、今後も継続されることを期待する。

## 10. 次年度 環境経営目標及び環境経営計画

- ・令和7年度、環境経営目標は以下のとおり設定した。
- ・令和7年度の環境経営計画は、令和6年度と同じ内容で取り組む事とする。

環境経営目標		基準値 (令和2年度～令和4年度 実績平均値)	令和7年度
(1)二酸化炭素 排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /年]	電力量	7,484,312.1	10,244,974.5
	化石燃料	658,097.8	696,138.3
	合計		10,941,112.8
(2)廃棄物排出量 の削減 [kg/年]	一般廃棄物 (可燃ごみ)	1,274.1	1,270.6
(3)水使用量の削減 [m <sup>3</sup> /年]		9,816.4	9,857.8
(4)化学物質の適正使用、適正管理		—	化学物質の適正使用、適正管理 に努める（使用量の把握）
(5)本業に関する目標		—	薬品漏洩事故ゼロの達成

- ※1 二酸化炭素排出量計算に用いた購入電力排出係数は 0.475kg-CO<sub>2</sub>/kWh(九州電力(株) 令和4年度の調整後排出係数)を用いた。
- ※2 基準値をR2年度～R4年度の平均値とするが、R6年度の活動において各職場で人員の増加、社用車の運用、業務の変更があり、実状を勘案し各部署で個別に目標値を設定している。  
尚、本社・車両については、R6年度の目標値に対して0.1%を削減しR7年度の目標値に設定する。
- ※3 福岡市東区の人口は増加しており、また近年の異常気象から東部水処理センターへの流入量増加による処理負荷は年々増加している。このような状況における環境経営目標(維持目標)は実質的に削減目標と考えている。

以上